

## 優勝して思うこと

教育学部学生 山内達男  
(体育会 硬式野球部)

今年度の中国五大学学生競技大会は、第40回の記念大会ということで、ここ広島で盛大に行われた。我々の硬式野球の部は、五大学がすべて出揃った第29回大会から正式種目となったので、今年で12年目を迎えたことになる。過去11年を振り返ってみると、優勝回数は、広島大学5回、岡山大学4回、鳥取大学2回、鳥根・山口両大学が各1回（このうち、第33回・第37回大会は雨天のため2大学が優勝）と、広島大学が五大学中トップの成績を誇っている。

このように例年好成績を残していたのであるが、昨年の五大学大会では、一回戦で山口大学によもやの7回コールド負けを喫し、順位決定戦では何とか勝ち、3位という成績だった。これは、春季リーグ戦が終わり、新チームとなってから1か月しか練習できないこと、最大の目標は、あくまで広島六大学リーグでの優勝であることなどから、五大学大会を重要な大会とは考えていないからだった。そこで、今年は昨年と同じ屈辱を味わうことのないように、全力で優勝を狙うという気迫をもって、今大会に臨むことにした。

8日の第2試合、広島大学は鳥取大学と対戦した。鳥取大学はピッチャーがいいという前評判であったが、序盤で好機を逃さず、確実に加点し、8回集中打で一挙に5点を取り11対1の8回コールドで鳥取大学を下し、決勝へ進むことができた。翌日は、同じく山口大学、岡山大学を下して勝ち上ってきた鳥根大学との決勝戦である。鳥根大学は、2試合とも強力打線で打ち勝ってきており、いかに鳥根大学の打線を抑えるかが、勝敗の鍵だっ

た。試合は、広島大学が序盤で3点先行し、鳥根大学も1点を返し、3対1となった後、両チームとも要所を締め、無得点のまま最終回を迎えた。しかし、この回も3人で抑え、広島大学が見事に優勝を取めたのだった。



やはり、優勝するのはすばらしい。賞状と優勝カップをいただいたとき、胸の奥からふつふつと喜びがあふれてくる。私は5大学大会の実行委員をしていて、この日までずっと多忙の日を過ごしており、喜びもひとしおだった。

この優勝で、このチームは秋のリーグ戦でもいけるという感触をつかむことができたと思う。2試合とも勝ち方が良かった。投手は要所を締め、守りも投手を助け、特に攻撃は好機を逃さず、確実に得点できた。秋のリーグ戦は、8月の下旬から始まる。それまでの夏の間は、厳しい練習となるが、有意義にこなして、この五大学大会での優勝をフロックとせぬように、勢いに乗ったまま一気にリーグ戦制覇といきたいものだ。